

5 からだのケア（産婦人科）

産婦人科への受診はとても不安が大きいことでしょう。でも、被害者の身体を守り、傷の確認や治療のためにもすぐに受診をする必要があります。



被害後に必要なこと

緊急避妊ピル

妊娠を防ぐために、**72時間以内に服用**することが望まれます。

証拠の保全に関して

病院に行く前に、シャワーやトイレ、飲食はできるだけ控えましょう。（P16 証拠の保全を参照）

レイプキットによる証拠採取

加害者のDNAや体毛採取などの証拠採取が目的です。診察の際に使用します。
（警察に通報、被害申告が必要です）

性感染症検査（STD検査）

[1回目] 被害直後に病気があるかを調べます。
2～3週間後に予約をして結果を確認します。
[2回目] 被害による感染を調べます。

緊急避妊ピル

女性ホルモンを服用することにより、生理（月経）様の出血がおり、妊娠を回避することができます。副作用として多いのは、吐き気です。内服後、1～2時間以内に吐いてしまった場合は、もう一度飲むかどうか医師に相談しましょう。

※すべての産婦人科病院で緊急避妊ピルが常備されているわけではありません。

※コンドームを使っても妊娠の可能性はあります。思いがけない妊娠を避けるためにも被害直後の産婦人科受診は必要です。

※個人的に入手した緊急避妊ピル、STD検査キットは信用性に欠けるものです。薬の処方と検査は病院で受けましょう。

※SARC東京が病院を紹介します。受診する時に支援員が付き添うことができます。

妊娠したかも!?

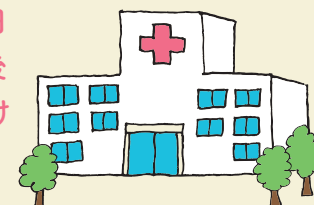
- 生理の予定日を1週以上過ぎて生理が来ない場合に、市販の妊娠検査薬で妊娠反応を確認できます。（2回用で1000円前後）
- 市販薬でチェックしても、最終的な妊娠の診断は、産婦人科の受診が必要です。

妊娠している!

妊娠を継続させるか中断するのは自分で選択していいのです。人工妊娠中絶手術のリスクについては、人によって違いますので担当医に相談しましょう。ただし、身体や心の負担を考えるとなるべく早いほうが良いです。
中絶費用は保険が適用されません。

中絶手術ができる時期と目安（参考料金）

- 12週まで……………10～20万円
- 21週6日まで手術は可能……40万円前後
- 22週目から母体保護法により手術は受けられなくなります。



性感染症は症状が出ないこともある!

性暴力被害でクラミジア、淋病などの性感染症になってしまいうこともあります。被害から2週間経った頃に検査をすると感染が分かります。早期治療により治りますので、必ず検査を受けましょう。梅毒、HIV感染症（エイズ）などの検査もおきましょう。